

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	項目 評価	評価指標・評価基準と中間評価結果					
					努力指標		中間評価	成果指標		中間評価
					努力指標	努力指標		成果指標	成果指標	
学 力 の 向 上	1. 基礎・基本の力の定着を図るために、個に応じた指導の充実を図る	物的環境として教室内の整備を推進する。生徒が健康的に、かつ情緒的な安定を得られる教室学習環境になるように努める。	・毎日の最後には教室内の掲示物や机・椅子等の整理・整頓に努める。 ・より良い教室環境を目指した教師間での評価・交流を行い、工夫・改善を行う。	1	4	教室内について学年交流し、学習効果へ工夫された最適な環境	3.2	4	生徒・保護者の満足度(環境に対する)平均が80%以上	4
				3	3	教室内が概ね整備され、掲示物等もきちんとしている環境		3	生徒・保護者の満足度(環境に対する)平均が60%以上	
				2	2	教室内があまり整備されず、期限切れの掲示物がある		2	生徒・保護者の満足度(環境に対する)平均が40%以上	
				1	1	教室内が全く整備されず、机などの整頓もできていない環境		1	生徒・保護者の満足度(環境に対する)平均が40%未満	
		基礎的・基本的な内容の定着を図るため、個に応じた指導として集団による学習指導に取り組む。	授業で反復学習を展開し、さらに課題を通して、家庭学習の習慣と基礎基本の定着を図る。 (実施を基礎基本的な内容ごとに行いその実施率を8割以上を目指す-教科によって具体化)	2	4	基礎・基本の定着を図る内容の課題を授業や宿題で毎時間・毎単元で取り組んだ	3.1	4	生徒の満足度(反復学習など)平均が80%以上	1
				3	3	基礎・基本の定着を図る内容の課題を授業や宿題で週に1回は出し生徒が取り組めるようにした		3	生徒の満足度(反復学習など)平均が60%以上	
				2	2	基礎・基本の定着を図る内容の課題をテスト前などには出し生徒が取り組めるようにした		2	生徒の満足度(反復学習など)平均が40%以上	
				1	1	基礎・基本の定着を図る内容の課題を授業や単元毎に宿題で出すことはあまりしていない		1	生徒の満足度(反復学習など)平均が40%未満	
		学年や教科で生徒の「学び合い」の展開を中心とした指導の工夫や交流を行う。	学年や教科で独自に1月に1回、「学び合い」を通した基礎・基本の定着を図る取組みができていない	3	4	学年や教科で独自に1月に1回、「学び合い」を通した基礎・基本の定着を図る取組みができていない	2.1	4	生徒・保護者の満足度(授業・学習など)平均が80%以上	2
				3	3	学年や教科で独自に2月に1回、「学び合い」を通した基礎・基本の定着を図る取組みをしている		3	生徒・保護者の満足度(授業・学習など)平均が60%以上	
				2	2	学年や教科で生徒の状態の分析をしているが、「学び合い」への具体的な取組みまで至っていない		2	生徒・保護者の満足度(授業・学習など)平均が40%以上	
				1	1	学年や教科での交流もなく、特に取組みをしていない		1	生徒・保護者の満足度(授業学習など)平均が40%未満	
個に応じた指導のため、学期中・休業中に補充学習を計画し、学習の継続性を促す。 (参加率を9割以上を目指す)	学習会の実施回数40回以上	4	4	学習会の実施回数40回以上	1.6	4	学習会参加累計学年人数60%以上	4		
		3	3	学習会の実施回数30回以上		3	学習会参加累計学年人数50%以上			
		2	2	学習会の実施回数15回以上		2	学習会参加累計学年人数20%以上			
		1	1	学習会の実施回数15回未満		1	学習会参加累計学年人数20%未満			
2. 個性の伸長を図りながら、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学ぶ意欲を育てる。特に課題意識を持ちにくい生徒へのより良い支援のあり方を研究する。	各教科で研究授業を行い、興味関心を高める授業を研究する。 生徒の学習への自己評価を生かし、分析したものをどのように自分の学習へ生かせばよいかの指導について考える。	学力の向上を目指した校内授業研究を行い、本年度は1回行ない、校内研修を実施する。	5	4	校内授業研究会を2回以上実施し、校内研修も実施した	1.7	4	授業がわかる生徒が80%以上	3	
				3	3		校内授業研究会を1回実施し、校内研修も実施した	3		授業がわかる生徒が60%以上
				2	2		校内授業研究会を実施できていないが、校内研修は実施した	2		授業がわかる生徒が40%以上
				1	1		校内授業研究及び校内研修の実施ができていない	1		授業がわかる生徒が40%未満
	他校の研究授業に5名以上参加し、校内研修により交流する。	研究授業等の研修会へ2回以上参加し、研修内容の交流を全体・学年・教科会などでした	6	4	研究授業等の研修会へ2回以上参加し、研修内容の交流を全体・学年・教科会などでした	1.5	4	校外での研究授業等への参加5名以上で報告実施	2	
				3	3		研究授業等の研修会へ1回参加し、研修内容の交流を全体・学年・教科会などでした	3		校外での研究授業等への参加5名未満だが報告実施
				2	2		研究授業等の研修会へ参加した	2		校外での研究授業等への参加あったが報告実施なし
				1	1		研究授業等の研修会へ参加していない	1		校外での研究授業等への参加なし
	・各生徒へ学習目標・取り組み目標を明確に示していき、その視点から自己評価により自身の課題を把握させる。	生徒へ学習目標を具体的に示し、それを目指した指導・評価を実施し、生徒各自に授業を振り返らせ、課題を把握させ、次時へつなげている	7	4	学習目標を具体的に示し、それに向けての指導・評価をしたが生徒各自が課題をつかむまでできていない	3.1	4	学習目標を目指して学習に取り組む生徒が80%以上	3	
				3	3		学習目標は示して授業をしているが、それを意識させる指導や評価をしていない	3		学習目標を目指して学習に取り組む生徒が60%以上
				2	2		学習目標を示して授業をしていない	2		学習目標を目指して、学習に取り組む生徒が40%以上
				1	1		学習目標を生徒へ具体的に示さないで授業をしている	1		学習目標を目指して、学習に取り組む生徒が40%未満
3. 学ぶことの楽しさや成就感を持たせ、学習意欲の向上を図る評価のあり方を研究する(指導と評価の一体化)	授業の指導計画(シラバス)や評価方法等が十分に生徒や保護者へ知らされており、生徒は何をすればいいかが明確になっている。(努力すべき点がはっきりして、取り組みやすくなっている。)	年間指導計画(シラバス)・通知表などの資料が生徒・保護者にとってより分かりやすく学習のめあてとして生かされるものであるか、工夫・改善していく。	8	4	年間指導計画(シラバス)・通知表などの資料を生徒へ示し利用し、指導に役立てている	3.3	4	年間指導計画(シラバス)・通知表等の資料への生徒・保護者の利用・満足度が80%以上	3	
				3	3		年間指導計画(シラバス)・通知表などの資料を具体的に利用はしていないが、念頭において授業をおこなっている	3		年間指導計画(シラバス)・通知表等の資料への生徒・保護者の利用・満足度が60%以上
				2	2		年間指導計画(シラバス)・通知表などの資料とは違った指導をしているので工夫・改善を検討している	2		年間指導計画(シラバス)・通知表等の資料への生徒・保護者の利用・満足度が40%以上
				1	1		年間指導計画(シラバス)・通知表などの資料を十分利用できていないし、その必要性も感じない	1		年間指導計画(シラバス)・通知表等の資料への生徒・保護者の利用・満足度が40%未満
	生徒の多方面にわたる学習活動が的確に各観点別評価に表されており、さらに評価結果に柔軟に対応し、支援に生かしている。(指導と評価の一体化)	通知表で伝える評価の内容について、その評価情報を明確にしていく。そのために評価資料の収集とその活用について校内研修会を開き研究する。(信頼の置ける評定と評価)	9	4	評価についての共通理解・認識が出来ていると思うし、教科会等で研修した	3.1	4	通知表の評価への生徒・保護者の理解・信頼度が平均が80%以上	3	
				3	3		評価についての共通理解・認識まで至っていないが、問題ないと思う	3		通知表の評価への生徒・保護者の理解・信頼度が平均が60%以上
				2	2		評価についての共通理解・認識に差があるように思う(研修の不足)	2		通知表の評価への生徒・保護者の理解・信頼度が平均が40%以上
				1	1		評価についての共通理解・認識にかなりの差があり、生徒・保護者の不信感を感じる(工夫・改善・研修の必要がある)	1		通知表の評価への生徒・保護者の理解・信頼度が平均が40%未満

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	項目 No.	評価指標・評価基準と中間評価結果				
					努力指標		中間評価	成果指標	中間評価
豊かな 人間性 の 育成	1. 自分の行動に責任を持たせると共に、自立心を育て、集団生活や社会生活に必要な力を育む。	「あいさつをする」、「身だしなみを整える」、「時間を守る」について生徒同士が声をかけあい。伸びていけるように指導する。	・毎月1回学年合同終学活を実施し、「あいさつをする」、「身だしなみを整える」、「着ベル」について呼びかけ、点検活動をする。 ・学校・学年の生徒会活動としてあいさつ運動、遅刻0運動、服装容儀運動を位置づけ、取り組みを生徒により計画、実施する。 ・遅刻者0を目指した家庭との連携を含めた取り組みを実施する。	4	生徒が自主的に向上しようとする動きが表われ、変化がみられた。	2.6	4	3つの取り組み目標ともできている生徒が90%以上	3
				3	教師の働きかけでかなりの成果が出た。		3	3つの取り組み目標ともできている生徒が70%以上	
				2	多くの生徒に成果がみられたが保護者に働きかけも特定の生徒は成果がでなかった		2	3つの取り組み目標ともできている生徒が50%以上	
				1	生徒全体に成果がほとんどあらわれなかった		1	3つの取り組み目標ともできている生徒が50%未満	
	2. 仲間と協力することの大切さを実感させ、お互いを信頼し、尊重し合える集団づくりをする。	・クラスマッチ、文化祭、各種委員会活動を生徒の手で企画・運営できるよう指導する ・人間関係づくりの取り組みを年間を通して、計画的に実践していく。	・毎週欠唯口を生徒活動の口として設定し、自治活動を指導していく。 ・行事後は生徒へ向けても、アンケートを実施する。 ・終学活や学活・道徳の時間を通して、クラスの課題や取り組みを一人ひとりの課題として指導していく。 ・生徒会のピアサポート活動や学級単位での構成的エンカウンターエクササイズ等を取り入れた人間関係づくりの実践を計画的に実施する	4	行事への取り組みを事前から委員・係を組織的に動かし生徒中心のものとした	2.7	4	行事に対して肯定的満足・達成感を持つ生徒が90%以上	4
				3	行事への取り組みを生徒中心に動かし		3	行事に対して肯定的満足・達成感を持つ生徒が70%以上	
				2	行事への取り組みはどちらかというと教師中心であった		2	行事に対して肯定的満足・達成感を持つ生徒が50%以上	
				1	行事への取り組みはほとんどすべて教師指導型で行った		1	行事に対して肯定的満足・達成感を持つ生徒が50%未満	
	3. 家庭と連携して生徒理解を深め、一人一人の課題に対応した支援をおこなう。	教育相談の時間を毎学期確保し生徒の思いをしっかりとつかむ進路(体験)学習を通して、自分の将来を意識させながら、自分の力を見極め将来への展望を持たせる。	・教育相談(面談)期間を年間3回設定する。 ・学年通信を毎月1回発行する。 ・生活ノートを通した生徒一人一人との教育相談活動を毎日実施する。 ・キャリア学習を通して、自立への支援を図る。	4	教育相談・生活ノート・その他で生徒理解の取り組みは目標の9割以上取り組んでいる。	3.2	4	先生が自分を理解してくれていると感じている生徒が90%以上	2
				3	教育相談・生活ノート・その他で生徒理解の取り組みは目標の7割以上取り組んでいる。		3	先生が自分を理解してくれていると感じている生徒が70%以上	
				2	教育相談・生活ノート・その他で生徒理解の取り組みは目標の5割以上取り組んでいる		2	先生が自分を理解してくれていると感じている生徒が50%以上	
				1	生徒理解の取り組みは目標の5割未満であると思う		1	先生が自分を理解してくれていると感じている生徒が50%未満	
まちぐるみによる教育の推進	授業や行事等の学校情報を保護者に積極的に公開し、学校内での取り組みについて理解を図る。	・ホームページの更新回数の向上と内容の充実を図る。 ・学年・学級通信を全学年・全学級で発行していく。 ・参観案内をプリントやメール連絡網で実施するだけでなく、懇談会の内容の充実を図る。	4	取り組み目標の9割以上である。	2	4	学校の状態や様子がよく分かると感じている保護者が90%以上	2	
			3	取り組み目標の7割以上である。		3	学校の状態や様子がよく分かると感じている保護者が70%以上		
			2	取り組み目標の5割以上である。		2	学校の状態や様子がよく分かると感じている保護者が50%以上		
			1	取り組み目標の5割未満である。		1	学校の状態や様子がよく分かると感じている保護者が50%未満		
	1. 保護者地域の人に、学校の取組を理解していただき、協力や助言をしていただく。	学校に関心をもっていただき、学校の取組などを理解してもらうと共に助言をいただく。	・客観的かつ幅広く、具体的示唆をいただける学校協力者会議のメンバーを検討し、選出する。 ・学校評価システムの評価項目の説明 ・協力者会議では学校の情報を発信する機会とする。	4	学校協力者会議4回、学校評価を実施	4	4	学校協力者会議参加者の満足度－肯定的回答が90%以上	2
				3	学校協力者会議3回、学校評価を実施		3	学校協力者会議参加者の満足度－肯定的回答が70%以上	
				2	学校協力者会議2回、学校評価を実施		2	学校協力者会議参加者の満足度－肯定的回答が50%以上	
				1	学校協力者会議・学校評価を実施したが形式にとどまった		1	学校協力者会議参加者の満足度－肯定的回答が50%未満	
	学校開放や授業参観の回数を増やし、学校の実態を見ていただく。	・月1回は懇談会を持つ。 ・学校開放の期間や回数を増やす。 ・休日参観日を年間2回とする。	・月1回は懇談会を持つ。 ・学校開放の期間や回数を増やす。 ・休日参観日を年間2回とする。	4	学校公開週間に年に2回以上設定し、積極的に広報活動を行った	3	4	学校協力者会議参加者の満足度－肯定的回答が90%以上	2
				3	学校公開週間に年に1回設定し、積極的に広報活動を行った		3	学校協力者会議参加者の満足度－肯定的回答が70%以上	
				2	学校公開週間を設定したが、広報活動は積極的ではなかった		2	学校協力者会議参加者の満足度－肯定的回答が50%以上	
				1	学校公開が積極的でなく、地域に開かれた学校ではない		1	学校協力者会議参加者の満足度－肯定的回答が50%未満	
	PTA活動の活性化を図る。	・PTA活動の内容の見直しと運営の改善を図る。 ・教師のPTA活動への全員参加を図る。 ・PTC活動を全学級、全学年で実施する。	・PTA活動の内容の見直しと運営の改善を図る。 ・教師のPTA活動への全員参加を図る。 ・PTC活動を全学級、全学年で実施する。	4	PTA活動は保護者も積極的に、教職員もかかわり活発である	2.6	4	PTA活動に対する保護者の満足度－肯定的回答が80%以上	3
				3	PTA活動は活発で多くの保護者が積極的に参加している		3	PTA活動に対する保護者の満足度－肯定的回答が60%以上	
				2	PTA活動は活発だが、一部の保護者によるものになっている		2	PTA活動に対する保護者の満足度－肯定的回答が40%以上	
				1	PTA活動があまり活発とは言えない		1	PTA活動に対する保護者の満足度－肯定的回答が40%未満	
2. 地域の教育力を開拓し、積極的に活用する。－キャリア教育の推進と共に	総合的な学習や職場体験、職業講話などの活発な地域へのかかわりを持つ。	・総合的な学習の時間(キャリア教育を含む)と地域との連携を図る取り組みを実施する。 ・総合的な学習の時間の3年間を通した計画を地域との連携の中で策定する。 ・地域の行事に積極的に参加する機会をもつ。	4	総合的な学習を通して、生徒は地域とのかかわりを各学年で持つことができ、地域の行事にも学校をあげてボランティア参加できた。	3	4	地域とのかかわりをもつ授業や体験に対して生徒の満足度が80%以上	4	
			3	総合的な学習を通して、生徒は地域とのかかわりを1・2学年で持つことができ、地域の行事にも活動を中心にボランティア参加できた。		3	地域とのかかわりをもつ授業や体験に対して生徒の満足度が60%以上		
			2	総合的な学習での5日間のキャリア教育を通して、生徒は地域とのかかわりを2学年で持つことができた。		2	地域とのかかわりをもつ授業や体験に対して生徒の満足度が40%以上		
			1	一部生徒が地域の行事にボランティア参加できた。		1	地域とのかかわりをもつ授業や体験に対して生徒の満足度が40%未満		